

キレない子 育てるために

「セカンドステップ」で感情コントロール

小中高の子どもたちによる暴力行為は年間約6万1千件に及び、過去最多を更新……。昨年度の文部科学省「問題行動調査」でそんな結果が出た。キレずにトラブルを解決できる子を育てるには、どうすればいいのか。「セカンドステップ」という米国のプログラムがNPOの活動で広がり、学校現場にも採り入れられはじめている。

(三島あずさ、花野雄大)

学校現場で導入進む

このプログラムは「子どもが「怒りの扱い」の3章で構成が加害者にならないために」と1980年代に米国で開発された。自分の気持ちを表現し、相手の気持ちも思いやる「相互の理解」▽困難な状況に前向きに取り組み、問題解決の力を養う「問題の解決」▽怒りを自覚し、対処法を学

怒りを感じたら…

- ①怒りによる体の変化(胸がどきどきするなど)を感じ取る
- ②ゆっくり3回深呼吸
- ③数を5まで数える
- ④「落ち着いて」と口に出して自分に言い聞かせる

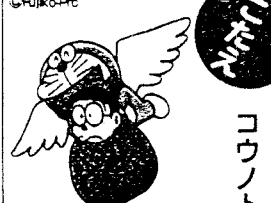
(セカンドステップのプログラムから)

東京都品川区の教育委員会は2006年、教委では全国で初めて同プログラムを採用した。小学校で実施を進め、昨年度からは全38校で1、2年生が年間計10時間学んでいる。同区教委の小中一貫教育担当課長、和氣正典さんは「日本の教育では怒ること自体を『よくないこと』ととらえ、我慢するよう指導してきた。でも、怒りの感情を持つのは自然なこと、というのがセカンドステップの考え方。怒りをためこまず、どうコントロールするかを学ぶことが大切」と話す。

導入のきっかけは数年前、1～9年(小1～中3)の全学年が学区独自の教科「市民科」の内容を検討していた頃のこと。先生たちから「子どもたちが他人の感情を読み取れなくなっている」「それが原因でけんかになるケースが増えているようだ」との声が上がったという。

今ではもめごとが起きても子どもたちから「(気持ちを落ち着かせるため)まず数を数えるんだよね」「(その行動は)フェアかな?」などと声が上がることが多くなった。学習効果の表れだ。保護者からも「怒りに任せて子どもを頭ごなしにしかっていた。自分もこういうプログラムを受けたい」との感想が寄せられた。

「セカンドステップ」の考え方は、2006年、教委では全国で初めて同プログラムを採用した。小学校で実施を進め、昨年度からは全38校で1、2年生が年間計10時間学んでいる。同区教委の小中一貫教育担当課長、和氣正典さんは「日本の教育では怒ること自体を『よくないこと』ととらえ、我慢するよう指導してきた。でも、怒りの感情を持つのは自然なこと、というのがセカンドステップの考え方。怒りをためこまず、どうコントロールするかを学ぶことが大切」と話す。



コウノトリ

かつては日本中にいたけど、つかまえたり、巣をつくる木が切られたりして減ってしまった。中国や台湾から親をもらい、その子どもを増やすことに成功したよ。

1面に「しつもん」